

政務活動調査報告書

調査日	平成30年11月2日（金）
視察場所	愛知県 豊橋市
調査項目	産後ケア・チャイルドサポートについて
視察者名	野島さつき
市の概要	面積：261.86 km ² 人口：363,280人 人口密度：1,387.30人/km ² 世帯：147,550世帯 経常収支比率：89.8% 実質公債費比率：5.5%

豊橋市では、新規の子育て支援事業として、産婦健康診査と産後ケアを平成30年6月からスタートさせました。また、10月からは7ヶ月児の親子を対象にした「チャイルドサポートプラン」の作成事業を実施するなど、出産直後から子育て期までの切れ目のない支援強化を図っています。



保健所・保健センター
「ほいっふ」

<産婦健康診査事業>

産後うつなどにつながる産婦の心身の不調を早期にキャッチする。

- 対象者・・・市内に住所を有する出産後2週間ごろの産婦
- 実施内容・・・問診（生活環境、育児不安、精神疾患など）、診察（子宮復古状況など体重・血圧測定、尿検査、メンタルチェック）
- 実施回数・・・1回
- 費用・・・公費負担

<産後ケア事業>

産婦の心身の休養と育児相談、赤ちゃんの沐浴や授乳の方法、発育相談など

- 対象者・・・市内に住所を有する家族等から十分な家事及び育児などの支援が受けられず、心身の不調や育児不安が強い等のある産後4ヶ月未満の産婦とその乳児
- 実施内容・・・産婦人科医療機関等で宿泊型、デイサービス型によるケアを実施
- 利用期間・・・7日間まで

- 利用料金・・・生活保護、市民税非課税世帯 事故負担なし
その他の世帯 宿泊型：1泊2日 5,400円、1泊追加 2,160円
デイサービス型：1日 2,160円

<産科医療機関等との連携>

- ・入院ではないので、医師に診てもらわなければならないことをして頂ければ良いことを訴えた→宿泊型：7施設、デイサービス型：9施設 登録
- ・東三河広域での周産期保健医療連携推進会議の開催（年2回）
- ・医療機関との連絡会（毎月）

<利用状況>

豊橋市の利用状況 ①

開始時期：平成30年6月

年齢	相談時期	出産回数	形態	日数	利用時期	施設	希望理由	満足度	解決度	感想等
1 20代	妊娠中	初産	宿泊	2	産直後	病院	育児不安 休息	とても満足	解決	育児も家事も自分でやらないといけなかったため、退院後体力を回復する時間を持て良かった
2 20代	産後3か月頃	初産	デイ	2	産後3か月頃	助産院	育児不安 休息	とても満足	ほぼ解決	悩み等も聞いてもらえ、ゆっくりでき、余裕ができた
3 30代	産後2か月頃	初産	宿泊	3	産後2か月頃	助産院	育児不安 休息	とても満足	解決	アドバイスがもらえ不安だった事が解消でき、気持ちが楽になった
4 20代	産後1か月頃	初産	宿泊	3	産後1か月頃	病院	育児不安 休息	満足	ほぼ解決	ゆっくりと休養する時間が取れ、子どもを預かってもらえ、一人で落ち着く時間ができ良かった
5 30代	産後3か月頃	初産	宿泊	5	産後3か月頃	病院	休息	満足	ほぼ解決	十分な休息がとれて良かった
6 50代	妊娠中	初産	宿泊	7	産直後	病院	育児不安 休息	とても満足	解決	早めの体力回復ができ、授乳や沐浴等のやり方を身に付けて自宅に戻れた事で精神的に安定して育児をスタートする事ができた

<チャイルドサポートプラン>

子どもの成長に合わせ、母親が最もほしい情報を提供するための支援プラン

- 対象者・・・市内に住所を有する7ヶ月～1歳未満のお子さんと保護者
- 会場・・・こども未来館と地域子育て支援センター（5か所）
- 内容・・・チャイルドサポートプラン（豊橋で子育てをするための情報提供シート）に沿って、子育て支援サービスの紹介や相談対応をするとともに、親子が交流する場を提供



こども未来館

<所 感>・・・野島さつき

産後は、赤ちゃんの世話でこれまでとは環境・生活が一変します。育児への不安や生活環境の変化に伴うストレス、出産後のホルモンバランスの変化などから、約1割の方が「産後うつ」を発症すると言われていています。核家族化や地域社会との関わりの希薄化なども関係しているとの指摘もありますが、頼りになる相談相手が身近におらず、夫のサポートも得にくい中で、次第に追いつめられている母親も少なくないと考えます。



幼子を抱えて孤立しがちな母親からの“SOS”をしっかりとキャッチし、心身両面から支えていく体制づくりが急がれます。「産後ケア事業」は、国の「母子保健医療対策総合支援事業」のメニューに示されている事業であり、平成26年度はモデル事業として、平成27年度からは本格的実施されており、平成30年度予算に520市町村分の実施費用が盛り込まれました。

豊橋市では、6月から「宿泊型」と「デイサービス型」の産後ケアを実施したところ、1か月間で利用者が30人にのぼり、予想を上回る利用に驚いているそうです。想定していたハイリスクな方だけではなく、妊娠期を元気に過ごしてきた高齢の方の利用が多く、産婦さんの年齢が高くなるにつれ、産後の回復に不安があったり、夫や親の支援が得られ難いことが分かったそうです。利用者からは、「悩み等も聞いてもらえ、ゆっくりできた」「アドバイスがもらえ不安だった事が解消でき、気持ちが楽になった」など、大変喜ばれているそうです。本市においても、産婦の置かれている状況は同じと考えます。1日も早い「産後ケア事業」の開始を願います。

10月から始まったチャイルドサポートプランは、「子どもの成長に合わせ、母親が最もほしい情報を提供する」ための支援プランで、7か月児～1歳未満児を対象にしています。この時期は4か月健診と1歳6か月健診の狭間にあたり、人見知りやお座りなど成長が見え始めるころです。発育や発達などの育児不安へのアドバイスや、職場復帰前に必要な情報、同じ月齢の親子が交流できる場の提供など、子育てをするための情報提供シートを使って、それぞれの家庭に応じた子育て支援サービスを紹介します。対象者全員に会えるよう、案内状に記念品引換券を同封し、参加者には東三河材で作った木のおもちゃを渡しています。まだ、始まったばかりですが、子育て家庭の孤立化を防ぐ効果を期待しているそうです。孤立化を防ぐためには「直接会うこと」は非常に大事なことと考えます。



豊橋市では「こんにちは赤ちゃん訪問」時に「子育て情報ハンドブック」をお渡ししているそうですが、「チャイルドサポートプラン」でハンドブックを基に説明する際、「そんなのもらったかしら？」という声が多々あり、渡してあっても活用されていないことに驚いたそうです。そのためハンドブックと一緒に、市から届くお知らせを入れておけるファイルまで用意し、お渡ししているとのこと。そこまでする必要があるかは別として、子育てに関する市の様々な情報や支援がどうしたら皆



さんに届くか工夫を凝らし、「地域デビュー」に繋げている点は大変感心いたしました。こういう取り組みも参考に、今後も本市のさらなる子育て支援の充実にむけ、様々な提案をして参りたいと思います。

以上